



# ランドセルのバトンタッチで、繋がる笑顔。

— 幸せのランドセルバンク プロジェクト —



ランドセルバンクとは…

まだ十分に使えそうなランドセルを磨き上げて、それを必要とする入学前の児童に届けるプロジェクトです。このランドセル支援が、児童たちの笑顔をつくり、多くのご家庭にとって少しでも支えとなる取組みにできればと願っています。

## 全国各地から、たくさんの支援が寄せられました。

2021年1月からスタートしたこの取組みですが、数ヶ月ほどの呼びかけの間に、300個を超えるランドセルが私たちのもとに届きました！どれも大切な思い出の詰まったランドセルたちです。私たちも、心を込めて磨き上げています。



支広  
援が  
る、  
輪。

## 新たな命を吹き込まれた 幸せランドセル

これまでに28個の「幸せランドセル」が、入学児童たちの背中に旅立っていきました（R3.6月末現在）。これから先、子どもたちが小学校生活で積み重ねていく思い出を見守ってくれることでしょう。



## これからの、ランドセルバンク…

この取組みを、息の長い支援活動に育てていきたいと思っています。今回、短期間にもかかわらず、多くのご家庭から寄贈を受けることができました。今後の課題は、このランドセル支援を必要とされるご家庭に、中古ランドセルの無償提供の機会を知っていただき、ひとつでも多くのご家庭の支えとなっていくことです。

### 親子が笑顔になれる演出

ランドセルバンク、もう1ひとつのコンセプト。  
気軽に入りやすく、親子でランドセル選びを楽しんでいた  
だける場所づくりでした。これを実現させてくれたのが、  
「アトリエ&カフェ STAND POINT（博多区美野島）」です。

### アトリエ&カフェ STAND POINT

福岡県福岡市博多区美野島2丁目6-3



協力：スペクトラムアンドパートナーズ株式会社



▲本物のランドセルショップの様な展示

笑顔で接してくれるボランティアスタッフ▶



▲開放的で入りやすい雰囲気

▲多くのカントリーフィルムによる  
困難家庭の入学準備支援

# 皆さん、ご存知ですか？ 児童養護施設での暮らし。

— 児童養護施設等で暮らす子どもたちへのエール —



福岡市内にも、様々な理由で親と一緒に暮らすことができず、施設で集団養育を受ける子どもたちがいます。ただでさえ、ストレスや心の悩みを抱えやすい子どもたちです。楽しみにしていた数々の施設行事の中止は、彼らから笑顔を奪ってしまいました。

この一年、「コロナ禍にも、笑顔を。」を合言葉に、子どもたちへの支援の心を寄せてくださる協力企業・団体と一緒に活動してきました。

## 2020年5月 お菓子やジュースを届けて、笑顔を取り戻そう大作戦！

1回目の緊急事態宣言下、多くの子どもたちが塞ぎ込んでいると施設からSOSの知らせが届きました。新生堂薬局さんのご協力の下、4tトラック一杯に積まれたお菓子やジュースなどの食料品を、①和白青松園②福岡育児院③福岡子供の家の3施設に届けて回ることができました。これには、施設の子どもたちも、職員の先生方も喜んでくださいました。



無償でたくさんの  
お菓子やジュース  
を提供くださった  
太っ腹社長。  
(新生堂薬局  
/水田さん)



この日、医療従事者皆さんにエールを送ろうと福岡赤十字病院へも、新生堂薬局／水田社長と一緒に訪問し、様々な食料品をお届けしました。



病院を代表して、中房院長へ贈呈する様子

2020年10月

## コロナ禍にも、笑顔を。

### BBQのかわりに、豪華肉弁当を楽しんでもらおう大作戦！

鹿児島の黒毛和牛生産者／中山牧場さんよりブランド和牛を提供いただき、この後の頁で登場する「ドライブスルーふくおか」の仲間の皆さんと一緒に、和白青松園の子どもたちに喜んでもらおうと、ブランド和牛特性弁当を差入れました。



「宮崎宮迎賓館ラ・セゾン」と「懐石ランチ我淨」さんが心を込めて料理してくれた特性弁当は、子どもたちからも大人気だったそうです。



代表して酒瀬川園長に贈呈する様子  
代表して中村施設長と子ども2人にお渡し

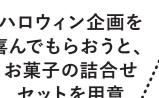


福岡リバティLC皆さんと一緒に訪問



### ハロウィンプレゼントの サプライズ大作戦！

南区若久にある「若久緑園」は、障がいがある児童たち40人ほどが一緒に暮らしている養育施設です。子どもたちが楽しみにしている季節行事に花を添えようと、福岡リバティLCの皆さんと一緒に「お菓子セット」をお配りしました。



### 手打ちの年越しそばで、新年を迎えてもらおう大作戦！

お蕎麦屋さんの経験を持つ地域の方から、「施設の子どもたちに年越しそばを振る舞いたい」という申し出をいただきました。感染対策の為、子どもたちの目の前での調理は断念しましたが、特製つゆと一緒に打ち立て蕎麦をお届けして、美味しく新年を迎えてもらいました。



1食ごとに丁寧に準備された手打ち蕎麦  
男の子たちが大盛りざる蕎麦を食べる様子  
本格的なお蕎麦屋さんの味に喜ぶ様子



冷蔵室からケーキを運び出す様子  
普段はコンビニやスーパーに並ぶ  
スイーツ類  
(右が九州プレスサービス／戸崎社長)



子どもたちはスイーツにテンションMAX！

### ケーキをお腹いっぱい 食べてもいい日をつくろう大作戦！

コンビニに並んでいるようなケーキやスイーツを約2,000食分、「九州プレスサービス」さんから提供いただきました。それらを①和白青松園②福岡育児院③若久緑園、3つの施設の子どもたちと職員さんのもとへプレゼントして回りました。



手書きの御札を添えて「書き書き」が届きました。

# コロナ禍で渡訪できないミャンマーとカンボジア。 どうすれば、孤児院の子どもたちの「明日」を守れるか。

— 未来に繋ぐスマイルマスクプロジェクト —

これまで私たちは、ミャンマー・カンボジアを何度も訪問し、孤児院の子どもたちと交流しながら僅かばかりの支援を続けてきました。平時でさえ困窮する暮らしが続く彼らを、コロナ禍は凄惨な環境に追い詰めました。社会保障の枠組みがあるはずもなく、彼らは真っ先に社会から切り捨てられてしまう立場です。



## 未来に繋ぐ「スマイルマスク」プロジェクトを始動。

コロナ禍でも継続した支援が届けられるよう、「手づくりマスク」の販売企画をスタートさせました。現地孤児院の上級生たちや学生のみんなにマスクを手作りしてもらい、それを福岡で販売して、その収益を全て孤児院での食糧や生活物資に充ててもらおうと考え出したスマイルマスク・プロジェクトです。

商品開発から販売に至るまで、新生堂薬局さんに全面協力をいただきました。

製品開発



両国の生地サンプルを新生堂薬局本社で選定する様子  
実際に発売された「未来に繋ぐスマイルマスク」

マスク製作



マスクが出来上がっていく様子に笑顔をつくる子どもたち(ミャンマー)  
誰が上手に作れるか、みんなで少しずつ上達しました(カンボジア)  
スマイルマスクに希望を乗せて、みんなで指ハート(ミャンマー)

## 「明日」を繋ぐ支援と、深まる絆。

2020年6月から打合せを重ね、スマイルマスクは10月末に発売開始を迎えました。TVや新聞の影響もあり、発売当初は特に多くの皆さんに購入協力をいただきました。それらの収益を活用して、この間、両国現地の孤児院へ支援を行ってきました。2021年1月には、福岡・ヤンゴン・ブノンベン、3つの都市がオンラインで繋がり、交流イベントを実施することができました。

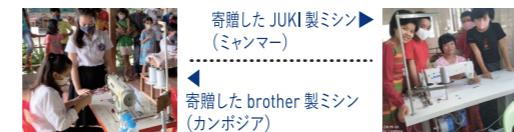


プロジェクトによる支援物資(主にお米や生活必需品・学習品など)

## 異国の、 幼い友人たち。



ミャンマー・カンボジア両国内では、縫製産業がとても盛んです。今回の手づくりマスクの縫製に使用するだけでなく、将来の職業訓練にも役立ててもらおうと、業務用ミシン(日本製)をそれぞれ6台ずつ寄贈しました。



### 未来に繋ぐスマイルマスク — 法人様向け販売のお知らせ —

〈未来に繋ぐスマイルマスク〉  
税込880円(1セット:2枚入)

使用している生地

無地:ミャンマーのロンジー生地  
柄物:カンボジアのクロマーブランド

※生地はそれぞれ、両国の伝統生地で上質コットンを使用しております。

- 10セット単位のおまとめ販売を実施しております。
- 詳しくは、fukuoka@jisedainochikara.jpまでお問い合わせください。
- 商品カラーは上記写真と同様のものに限られますので、予めご了承ください。

同時中継で福岡・ヤンゴン・ブノンベンが繋がりました!

リモート中継の画面を真剣に見つめる子どもたち(ミャンマー)

リモート中継の画面を見つめる子どもたち(カンボジア)

届いた支援物資を使って早速のお昼ご飯!(カンボジア)

大盛りご飯をいただきまます!1人ずつ受取る様子(ミャンマー)

Tシャツや文房具いつも協力してくれる日本語学校の学生皆さん(カンボジア)

# 絵に込めた将来の夢は、必ず「明日」のチカラになる。

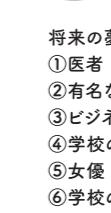
— お絵かき大会イベント・孤児院ドリームプロジェクト —

ミャンマー・カンボジアの孤児院各所で、自分の将来の夢について話し合い、それを絵として描き上げる特別授業を企画しました。これらの絵を1枚でも多く、福岡の応援者皆さまのもとへ届けることができればと思っています。

## 想いを込めて、 将来の夢を描きました!



カンボジアでは、「SFODA孤児院」と「NFC孤児院」で実施しました。



将来の夢(左から)

- ①医者
- ②有名な歌手
- ③ビジネスウーマン
- ④学校の先生
- ⑤女優
- ⑥学校の先生

生きる「今日」と、  
夢みる「明日」。

## 絵のレンタルハート事業を始めます。

収益の全てを、ミャンマーとカンボジアの孤児院施設の食糧や生活物資など、子どもたちの「明日」を支えるための費用に充てさせていただきます。

オフィスや店舗・施設内に、彼ら・彼女たちが懸命に描いた「将来への約束」を飾ってあげてください。

- 月額900円~(税抜)
- 絵のサイズ:A3
- 毎年、現地の子どもたちの様子を報告資料でお伝え致します。

○お問合せ先:fukuoka@jisedainochikara.jp



## 内戦の様相を見せるミャンマー

子どもたちを苦しめるのは、コロナ禍だけではありません。

2/1政変以降、ヤンゴンをはじめミャンマー国内では戦火が上がり続けています。この間、一緒に活動を続けてくださっている現地仲間の皆さんも、自身の命を守ることが最優先です。子どもたちの絵がミャンマーから福岡へ届く日を祈りながら待ちたいと思います。



ミャンマー現地からいつも協力をしていたいいるピュウさん(左)、オンマーさん(中)、サンサンミンさん(右)

# 「ドライブスルーふくおか」は、こうして立ち上がった。



## 2020年4/28 (火) PM 「はじまり」

コロナ禍による初めての緊急事態宣言中、社会・経済は立ち往生。来店型の店舗や施設の多くが営業停止に追い込まれました。この日、数名で打ち合わせをしていた際に、他県での飲食店支援の事例が話題に上がりました。「他県ができるのなら、福岡でもできる!」とその場で、飲食店自慢のお弁当を感染の心配なく購入できるドライブスルーイベントの開催が決まりました。早速、店を閉めて売上が立たない飲食店経営者皆さんに連絡を取り、参加を呼びかけました。

## 4/29 (水祝) AM 「キックオフ」

イベント開催を決断して、その翌朝には、主旨に賛同くださった飲食企業の代表者の面々が勢ぞろいしてキックオフ。開催までに準備すべき項目を洗い出し、役割分担しながら一斉に動き出しました。まず早々に、中村学園大学様より会場をご提供いただき、続いて、弁当保管用の保冷車、HP・SNSなどによるIT広報体制、団体ロゴやイメージソング、事前予約やモバイル決済のためのオーダーシステム、スタッフTシャツ、PV動画製作、当日会場での資機材など、各方面からの無償の協力体制が次々に整ってきました。

## 5/4 (月) PM 「開催前日」

出店企業や豪華な弁当ラインナップも決まり、開催前日のリハーサルでは、お客様の誘導動線やお弁当の受渡し場所・方法などを確認し合いながら、当日の配置人員を決めっていました。



## 5/5 (火祝) 「開幕初日」

キックオフの日から6日後、いよいよ開幕初日を迎えるました。午前10:50、大学正門の開門とともに、最初のお客様がご来場され、瞬く間に学校敷地内がお弁当を求める車で埋まりました。開幕初日、大きな賑わいを見せた会場では、早々に「完売宣言」を出すことができました。

参加飲食店舗のスタッフ皆さんの目には涙が溢れています。コロナ禍で絶望の淵に立たされた飲食店ですが、足を運んでくださった多くのお客様の笑顔を目の当たりにして、「客商売をする喜びの原点を思い出させてくれた」と興奮ながら語り合う姿がありました。



一生ものの絆。

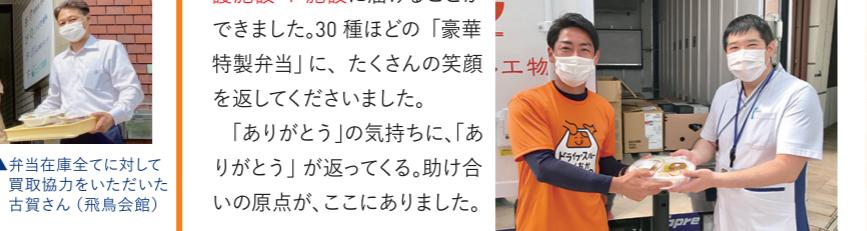
## 5/5 (火祝) ~5/31 (日) 「開催期間」

プロジェクトがスタートしてから約1ヶ月、私たちの矜持は、開催を1回で終わらせることなく、活動を継続できたことです。急速、1ヶ月前に集い合った私たちは、感動も苦労も分かち合ってきたチームとなりました。



### チームの心をひとつに、医療従事者への応援!

未曾有の緊急事態宣言下を走り続けてきた私たちの絆をより大きなものにしたのは、コロナウイルスの恐怖と毎日闘ってくださっている医療従事者皆さんへの弁当支援という活動でした。感謝と尊敬の気持ちを込めて、計1,159食の弁当を12の医療機関、4つの介護施設、児童養護施設1施設に届けることができました。30種ほどの「豪華特製弁当」に、たくさんの笑顔を返してくださいました。「ありがとう」の気持ちに、「ありがとう」が返ってくる。助け合いの原点が、ここにありました。



土日を中心計10回の開催

★ご来場台数:3,787台

★弁当販売個数:1万5,034食

★売上:1,613万9,400円

★出店飲食企業:38社

# 私たちに勇気を与えてくれる プロスポーツがある幸せ。

- 地元のプロスポーツ支援 - ※協力事業

## 1. プロスポーツチームへの 「1,000人応援動画」

第1回目の緊急事態宣言時は、市民に活力と勇気を与えてくれるプロスポーツも完全にストップしました。遅れての開幕となったプロ野球も、当面は無観客開催となり、ファンの声援から距離を置く中で、選手の皆さんには、感染リスクと聞いながらプレーすることになりました。

地元福岡のプロスポーツ選手皆さんに、感謝と応援の声を届けたいと考え、ドライブスルーイベントの最終週2日間(5/30・5/31)、来場者全てに「応援メッセージ」を呼びかけました。2日間で1,000人を超える声援を集めることができ、それを「1,000人応援動画」として各チームへ贈呈しました。日常にプロスポーツがあることへの有難みや、選手皆さんとの頑張りへの感謝を実感したコロナ禍でした。



### 「1,000人応援動画」をお届けした地元プロスポーツチーム



福岡ソフトバンクホークス アビスパ福岡 ライジングゼファー福岡 九州プロレス



## 2. プロバスケット選手との コラボ弁当企画 &看護学生応援



「ドライブスルーカーふくおか」とライジングゼファー福岡とのタイアップ企画として、選手オリジナル弁当を会場で販売して、コロナ禍でも来場者皆さんに楽しんでいただくための取組みを実施しました。シーズンを通して、協力飲食企業の力を借りて、12種類の弁当を提供させてもらいました。



試合会場で行った販売ボランティア 医療従事者支援を会場皆さんと一緒に



飲食企業と選手、弁当開発の様子 ライジング選手の皆さんと一緒に、医療機関・看護学校へ選手弁当やチームグッズを持参して、激励訪問を企画しました。



選手から看護学生・ 医療従事者へ弁当贈呈 激励訪問時、看護学生との6種類の選手弁当を楽しそうに選ぶ様子

# 1枚の「絵」との出会い

2021年度  
チャレンジ!

コロナ禍の1年を振り返ると、2020年度は、例年にも増して多くの皆さんと一緒に取組ませてもらった1年だったと思います。ここでは、2021年度から新たに実施する取組みを紹介させてください。

今年度は、小児がんと懸命に闘う子どもたちとそのご家族を応援する取組みを始める予定です。少しでも支えになりたいと心に決めたきっかけは、ある1枚の絵との出会いです。その絵のタイトルは「ラジオ体操」と記され、急性リンパ性白血病を患う5歳の男の子が描いたものでした。



### 小児がんの子どもと 家族が抱える悩みや負担

- ①長期にわたる入院・通院生活
- ②治療後の再発や合併症
- ③家族の心身疲労と経済的負担
- ④小児がんへの周囲の理解不足



### 絵の題名: ラジオ体操

4歳上のお兄ちゃんのすることは何でもやりたがり、小さなくじら夏休みのラジオ体操と一緒にしていました。これは6ヶ月の化学療法を終えた8月、久しぶりに家族そろってラジオ体操をした時の絵です。葉と放射線で髪の毛はありませんでしたが、「まあくんのかみのけ、かいてもいいかな」とつぶやき、自分の絵にそっと髪の毛を描いていました。いつも明るく振る舞っていましたが、やはり気にしていたのですね。雅貴との思い出は、これからも家族の宝物です。